

子ども食堂

23331222 永島萌々華

23331230 藤ヶ谷和花

はつくらこども食堂

- ・対象者：お子様からお年寄りまでどなたでも
- ・開催日：毎月最終土曜日 11：30～15：00
- ・金額：大人300円 高校生以下無料
- ・場所：初倉公民館くらら2階和室

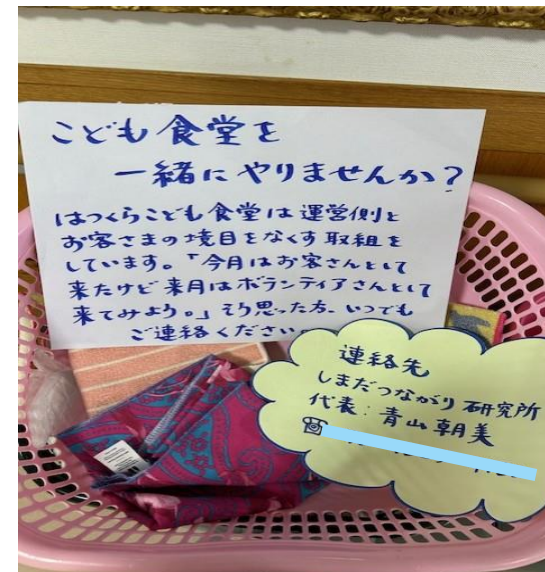
①調理ボランティア（一般、中学生、高校生、大学生）

②学習・リクレーションボランティア

ご飯のあと、子供たちと一緒に遊ぶ、お勉強を教える

③食材の提供をしてくださる方

お米、玉ねぎ、ジャガイモ、ニンジン、
カレーやシチューのルー、調味料など



1日の流れ

- 8 : 30 ~ 食材や玩具などを運ぶ
- 9 : 00 ~ 調理開始
- 11 : 30 ~ お客さんが来る
ボランティアが料理の配膳をする
お客さんが自由に食べたり遊んだりする
- 13 : 00 ~ 片付けや食器洗いをする人と
ご飯を食べる人で交代で分担する
- 15 : 00 終了



献立

- ・ ハヤシライス
- ・ マカロニサラダ
- ・ 味噌汁
- ・ デザート（りんご、シュガーラスク）



実践内容



ハヤシライスを作るために、玉ねぎの皮をむき、子どもでも食べやすいサイズに切った。

取りに来るお客さんに味噌汁をよそった。
子ども達とコミュニケーションをとりながら行った。





- ・赤ちゃんからお年寄りまで幅広く来ていた
- ・親子で来ている人が多かった
- ・大勢の人が来て、にぎわっている様子
- ・食べ終わった子どもは、絵を描いたり、玩具で遊んだりしていた
- ・一階では、射的や玉入れ等子どもが遊べる場所を設けていた。



いつから始めたか？

2019年3月から始めて
約5年間続けている

お客さんについて

年齢 → 赤ちゃんから小学生までの子どもとその保護者、お年寄りまで
人数 → 100人程度
総人数6500人
そのうち15%がお年寄り

献立の組み方

はじめは自前で食材をそろえていた



やっていくうちに企業、近所の農家から
食費や食材を寄付してもらうようになった

Point ✌

- 一度出した料理はなるべく出さない
- 栄養士などの専門家と一緒に
バランスの良いメニューを考えている

始めたきっかけ

- 子どもとの直接的なかかわりが減ったが、子どもたちが小学校に通っている姿を見て、地域の子どものために何かできることはないかと思うようになったから。
- 心の問題を抱えている子・生きづらさを感じている子・家庭に問題がある子の役に立ちたい、明るい存在になりたいと思うようになったから。

最初はこちらの特定の子どもたちのために始めた

⇒子育て家庭ばかりが集まり、想像と違ったが、

やっていくうちに子育て家庭だけでなく、地域の方やお年寄りの方まで集まる場へと変わっていき、今では、たくさんの方が関われる場となった

子ども食堂の役割

- 子どもにとっても、保護者の方にとっても月1の楽しみだと感じられるような場
- 忙しくて大変な保護者の方にとって息抜きになれるような場

子ども食堂だけど、子どもだけでなく保護者の方、地域の方、お年寄りの方など、みんなのためになれる
関わる人がどんどん増えていき、みんなが集まりつながる場所

食費について

大人の費用300円を使ったり、現金を寄付してもらったりしている

【フードバンクの取り組み】

家庭で使わない食材や企業や農家で余った食材を寄付していただく



ひとり親家庭に食品や調味料、洗剤、ゴミ袋などを無償提供

30家庭ほど
ひとり親家庭のLINE
グループでやりとり

課題



- ・ 来てほしい人にどのようにすれば来てもらえるか
- ・ スタッフに積極的に参加してもらうためにはどうしたらよいか
- ・ 子ども食堂の認知度を上げるためにはどうすれば良いか